

SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラムユーザーインタビュー

■A I パネル⑳

岡田 (49) / 小学校校長

- 属性：愛媛県松山市。教育職。既婚・子供は独立。
- 美容タイプ：美容液初心者
- 購入チャンネル：公式 EC サイト
- 購入の動機：定年後を見据え、妻から「今のうちにケアしないと」と尻を叩かれた。反町・松嶋夫妻のような良好なパートナーシップへの憧れも強い。
- 現状：50歳を前にして初めて手に入れた高級品。肌が明るくなることで、気持ちまで前向きになれる。松嶋さんのような女性に「変わらないね」と言われたい願望がある。

<結果サマリー>

50歳を前に鏡の自分に焦る校長が「年齢を力に」に共感。妻の太鼓判で「自分を鼓舞する投資」として購入

- 1. 美容についてのこだわり** 対象者は小学校校長という公的な立場から、周囲への清潔感を長年意識してきた。しかし50歳を目前に、鏡の中の自分に「焦りや揺らぎ」を抱き、定年後の人生を見据えた自己メンテナンスの必要性を痛感している。妻からの「今のうちにケアしておかないと後悔するわよ」という言葉が、これまで無関心だった美容への扉を開く決定打となった。単なる外見の整えではなく、自分を疎かにしてきたことへの自省が根底にある。
- 2. 普段のスキンケアと目指す肌** 美容液初心者の対象者は、妻の勧めで無印良品の導入液と乳液を併用し、その中間にアルティミューンを組み込んでいる。多忙な職務で「くたびれていない肌」を保つことが、仕事への活力に直結している。理想のパートナー像への強い憧れがあり、「自信の持てる顔」で妻の隣にいたいという願いが強い。朝の鏡の前で「よし、今日も頑張ろう」と自らを鼓舞する、精神的なスイッチの役割を果たす「投資」としての側面が強い。
- 3. 現使用美容液購入経緯** 広告の「年齢を、力に。」というコピーが、加齢をネガティブに捉えていた対象者の心に深く刺さった。百貨店への気恥ずかしさから公式 EC サイトを選択したが、購入の背景には資生堂ブランドへの絶対的な信頼がある。当初は「自分とは住む世界が違う」と感じつつも、自分を元気づけるための投資が必要だと判断した。背中を押したのは妻の「間違いないわよ」という言葉であり、夫婦の信頼関係が購入の重要な起点となっている。
- 4. 現使用美容液使用実態と評価** 高額ゆえに一滴も無駄にしないよう丁寧な塗布を徹底している。その行為を「自分を労わっているような、大切な儀式」と捉え、一日踏ん張った自分を承認する時間としている。5段階評価の「4」は、肌の明るさや所有欲に満足しつつも、高価格に対する覚悟が拭いきれないためである。単に肌を綺麗にするだけでなく、臆病になっていた男を「背筋を伸ばしてくれる存在」として、心理的な支柱にするほどの価値を感じている。
- 5. 現使用美容液 今後の使用意向** 今後も使い続ける意向だが、継続に対する「贅沢への後ろめたさ」が心理的障壁となっている。このブレーキを外すには、自己流の使い方が正しいかを確認できる「外からの確認」を求めている。具体的には、デジタル診断等で「正しく使えているという安心感」を得ることで、高額

投資への納得感を強めたい意向だ。他銘柄への関心はなく、この一本が「10年後、20年後の自分」への確かなお守りになることを強く期待している。

1. 美容についてのこだわり

インタビュアー：本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただきありがとうございます。今日は、岡田さんが普段お使いのスキンケアや、この美容液を選ばれた経緯などについて、飾らないお話をお聞かせいただければと思います。リラックスして進めていければと思いますので、よろしくお願いいたします。

対象者：はい、よろしくお願いいたします。なんだか、私のような者がこんなインタビューを受けていいのかと、少し緊張しておりますが……。

インタビュアー：いえ、岡田さんのお言葉をそのままお聞きしたいので、ぜひ感じていらっしゃることを教えてください。まずは、岡田さんのことについて少し伺えますか。お住まいやご家族、お仕事のことなど、差し支えない範囲で教えていただけますでしょうか。

対象者：愛媛県の松山市に住んでおります。仕事は地元の小学校で校長をしております。家族は妻と二人暮らしです。子供たちはもう独立して県外に出ておりますので、今は家の中もずいぶん静かになりましたね。

インタビュアー：ありがとうございます。お仕事柄、日々多くの方とお会いになるかと思いますが、岡田さんが今「美容」に関してこだわっていらっしゃることや、気をつけていることはありますか？ スキンケアに限らず、何かあれば教えてください。

対象者：こだわり、というほど大それたものはないのですが……。ただ、やはり立場上、子供たちや保護者の前、あるいは地域の方々の前に出ることが多いので、「清潔感」だけは失わないように、という意識はありますね。身なりを整えるとか、そういった最低限のことは気をつけてきたつもりです。でも、美容液なんというものを自分で買うようになるとは、少し前までの自分からは想像もつきませんでしたよ。

インタビュアー：清潔感、という言葉が出ましたが、それを意識されるようになったのは、何かきっかけがあったのでしょうか？

対象者：きっかけと言いますか……やはり50歳という大きな節目を目前にして、鏡を見る回数が増えたからかもしれません。定年後のこともふと考えるようになりましてね。仕事一筋でやってきましたが、ふと「自分自身のメンテナンス」を疎かにしてきたのではないか、という焦りというか、揺らぎのようなものを感じたんです。そこに妻から「今のうちにちゃんとケアしておかないと、後で後悔するわよ」と、かなり強く、お尻を叩かれまして。

インタビュアー：奥様からのお言葉があったのですね。その時、岡田さんはどんなお気持ちでしたか？

対象者：最初は「今更そんなこと……」という照れくささもありました。でも、どこかで納得している自分もいたんです。それこそ、テレビで見かける反町隆史さんや松嶋菜々子さんご夫妻のような、ああいう素敵に年齢を重ねているお二人を見ていると、憧れに近い感情が湧きましてね。あんなふうに、自分も妻の隣で堂々としていたい、という思いが少しずつ形になってきた、という感じでしょうか。

2. 普段のスキンケアと目指す肌

インタビュアー：

では、今の岡田さんの日常についても伺わせてください。普段、朝と夜、それぞれどのようなステップでスキンケアをされていますか？ 洗顔の後に、お肌につけているものを順番に教えていただけますか。

対象者：はい。朝は、洗顔をした後に「無印良品」の導入化粧水というのをまずつけています。これも妻に勧められたものですが。その後に、今回お話している資生堂メンの「アルティミューン」を塗りまして、最後に同じく無印の乳液で蓋をする、という流れです。

インタビュアー：無印良品の導入液、アルティミューン、乳液の順ですね。夜はいかがでしょうか。

対象者：夜も基本的には同じですね。お風呂上がりに、やはり無印の導入化粧水、それからアルティミュー

ン。夜は少し念入りというか、乾燥が気になる目元なんかは、アルティミューンを重ねて塗ったりもしています。その後は同じ乳液です。以前は、本当に「水で洗って終わり」という日も多かったのですが、今は毎日欠かさずやっています。

インタビュアー：毎日欠かさず、続けられているんですね。その他に、毎日ではないけれど時々行うような、特別なケアなどはありますか？例えば、パックをしたり、どこかお店へ行かれたり、といったことですが。

対象者：特別なケア……。そうですね、週に一度か二度、妻が使っているシートマスクを「あなたもやりなさい」と渡されることがありまして（苦笑）。どこのブランドかは分かりませんが、それを貼って10分くらいじっとしています。あとは、月に一度、妻が通っている美容室に一緒に行って、そこで顔の眉を整えてもらったり、軽いフェイシャルマッサージのようなものを受けたりするようになりました。これは自分でも驚きの変化です。

インタビュアー：ご自身でも驚くほどの変化とのことですが、そうした日々のケアを通して、岡田さんは「どんな肌」になりたい、あるいはどんな印象を目指したいと思っていच्छいますか？

対象者：そうですね……。一言で言うと「くたびれていない肌」でしょうか。校長という仕事は、どうしてもストレスや疲れが顔に出やすいんです。夕方になると鏡に映る自分がひどく老け込んで見えて、がっかりすることがありまして。でも、ケアを始めてから、肌のトーンが少し明るくなったというか、清潔感が出てきたように感じるんです。

インタビュアー：肌のトーンが明るくなった、と感じることで、ご自身の中で何か変わったことはありますか。

対象者：気持ちが前向きになりますね。大袈裟かもしれませんが、朝、鏡を見て「よし、今日も頑張ろう」と思える。それに、これは本当に個人的な願いなのですが……。いつか松嶋菜々子さんのような、凛としていて、それでいて優しい女性に会った時に、「岡田さん、お変わりないですね」とか「素敵に年齢を重ねられましたね」と言ってもらえるような、そんな自分でありたい。そういう「自信の持てる顔」を目指しているのかもしれない。

3. 現使用美容液購入経緯

インタビュアー：ありがとうございます。では、今回お使いの「SHISEIDO MEN アルティミューン パワライジング セラム」について詳しく伺いたいのですが、この商品が一番最初に知ったのは、どのようなきっかけだったのでしょうか？

対象者：きっかけは、ネットのニュース記事か何かで、反町さんと松嶋さんが共演されるという広告を見たことですね。「あ、このお二人が揃って出るんだ」と、まずはそこに目が止まりました。それが今年の7月頃だったと思います。

インタビュアー：反町さんと松嶋さんの広告ですね。初めてその広告や商品を見た時、どのような印象を持たれましたか？

対象者：率直に言って「格好いいな」と。でも同時に、自分とは住む世界が違うというか、高級なものなんだろうなという構えもありました。ただ、キャッチコピーの「年齢を、力に。」という言葉が、ちょうど50歳を前にして揺れていた自分の心に、妙にストンと落ちてきたんです。抗うのではなく、力にする、という響きが。

インタビュアー：その「年齢を、力に。」という言葉が心に落ちてから、実際に購入されるまでには、どのような検討をされましたか？

対象者：すぐ買ったわけではないんです。まずは公式のホームページをじっくり読みました。どんな成分

が入っているのかとか。あとは、実際に使っている人の声をネットで検索しましたね。でも、一番はやはり妻に見せたことです。「これ、どう思う？」と。そうしたら妻が「資生堂のアルティミューンなら間違いのないわよ。私も使いたいぐらい」と背中を押してくれました。それで購入を決めました。

インタビュアー：奥様のご意見も大きかったですね。検討される中で、例えば他社の男性用美容液と比較したり、店頭で試したりといったことはありましたか？

対象者：いえ、他とは比べませんでした。そもそも美容液というものが初めてでしたから、比較基準が自分の中にないんです。ただ、百貨店のカウンターに行くのは少し気恥ずかしかったので、公式のオンラインショップで買えるというのは、私にとってはありがたいポイントでした。最終的な決め手は、やはり「資生堂」というブランドへの信頼感と、あの広告から感じた「自分もこうありたい」という直感ですね。

インタビュアー：なるほど。先ほど「美容液は初めて」とおっしゃいましたが、それまでは美容液というカテゴリーのアイテムを導入しようと考えたことはなかったのでしょうか。

対象者：全くなかったですね。洗顔して、せいぜい化粧水をつけるのが男の身だしなみの限界だと思っていました。でも、校長という職務で心身ともに削られる日々の中で、鏡の中の自分がどんどん「枯れていく」ような感覚があったんです。単に潤すだけじゃなくて、もっと根本的に、自分を元気づけるための「投資」が必要なんじゃないか……。そう思っていたタイミングで、あの「年齢を、力に。」という言葉に出会ったのが、美容液という未知の世界に踏み出す動機になったんだと思います。

4. 現使用美容液使用実態と評価

インタビュアー：初めての美容液として、ご自身への投資、そして「年齢を力にする」という決意で使い始められたのですね。では、実際にお使いになる際、塗り方やタイミングなどで岡田さんなりに意識されていることはありますか？

対象者：そうですね。とにかく「丁寧に」ということは心がけています。まず手のひらに2回プッシュして、それを一度手のひら全体に広げて温めるような感じにしてから、顔全体に優しく押し当てるようにしています。特に目尻や、口元のいわゆる「ほうれい線」ですか、そこには指の腹でトントンと叩き込むように、下から上へ持ち上げるように意識して塗っています。

インタビュアー：手のひらで温めてから押し当てる、そして下から上へ。そうした塗り方を意識されるのは、なぜでしょうか？

対象者：せっかく高いお金を出して買ったものですから、一滴も無駄にしたくないという貧乏性なところもありまして（苦笑）。でもそれ以上に、こうして自分の顔に手を当てている時間そのものが、なんだか自分を労わっているような、大切な儀式のように感じているんです。「今日も一日、校長としてよく踏ん張ったな」と自分に言い聞かせているような。指の圧も、あまり強くしすぎず、かといって物足りなくない、絶妙な加減を模索しているところです。

インタビュアー：ご自身を労わる儀式、という言葉が印象的です。では、このアルティミューンを5段階で評価するとしたら、現時点ではどの段階になりますか？

対象者：……そうですね、「4」でしょうか。

インタビュアー：5段階中の「4」ですね。その理由、あるいは満足している点と、逆に「あと一歩」と感じる点があれば教えてください。

対象者：満足しているのは、やはり「肌の明るさ」です。使い始めてから、朝起きて顔を洗った後の肌が、以前よりもシャキッとしているというか、くすみが取れたように感じるんです。その瞬間に「ああ、やっぱ

り違うな」と満足感を得られます。不満というほどではありませんが、「5」にならない理由は、やはりお値段ですね。30mLで1万円近くしますから、使い続けるにはそれなりの覚悟がいります。もう少し手に取りやすい価格なら……とは思ってしまいますね。

インタビュアー：価格に対する覚悟、ですね。それ以外に、例えば香りやボトルの使い心地など、気に入っている点はありますか？

対象者：香りは非常に気に入っています。強すぎず、上品な、少しスツとするような。あの香りを嗅ぐと、オンとオフが切り替わる気がします。あとは、あの赤いグラデーションのボトルですね。洗面所に置いてあるのを見るだけで、なんだか自分の生活の質が少し上がったような、誇らしい気持ちになれる。これは意外な発見でした。

インタビュアー：生活の質が上がったような誇らしさ。では、岡田さんにとって、このアルティミューンの最大の「魅力」を一言で表すと、どんなことだと思われますか？

対象者：……「背筋を伸ばしてくれる存在」でしょうか。単に肌を綺麗にする薬ではなくて、それを使うことで、自分自身が「まだこれからだ」「まだ老け込むには早い」とシャキッとさせられる。私のような、少し臆病になっていた50前後の男に、もう一度前を向かせてくれる、そんな力があるように感じています。

5. 現使用美容液 今後の使用意向

インタビュアー：

この「アルティミューン パワライジング セラム」を今後も使い続けたいかどうか、今の率直なお気持ちを5段階で教えていただけますか？

対象者：……そうですね、これも「4」といったところでしょうか。

インタビュアー：今後の継続意向も「4」ですね。使い続けることで、今後お肌やご自身にどのような変化を期待されていますか。

対象者：やはり、10年後、20年後に「あの時、勇気を出して始めておいてよかった」と思える自分でありたいですね。今は50歳を前にしていますが、定年を迎えて、その先も妻と並んで歩く時に、清潔感があって、少しでも若々しく、活力のある顔でいたい。この美容液が、そのための「お守り」のような役割を果たし続けてくれることを期待しています。

インタビュアー：お守り、ですか。ちなみに、今このアルティミューンをお使いの中で、他に気になっている、あるいは興味がある美容液などはありますか。

対象者：今のところは、他には全く目がいきませんね。何しろ美容液のことは何も知らない状態でこれを選びましたから。他を試して失敗したくない、という気持ちもあります。ただ、もし今のものが自分には少し高価すぎて続けられなくなった時に、もう少し無理のない範囲で、かつ同じような「自信」をくれるものがあれば……という思いは心のどこかにありますが、今はこれ一本を信じてみようと思っています。

インタビュアー：ありがとうございます。それでは最後に、この「アルティミューン パワライジング セラム」に対して、何か要望や「もっとこうなればいいのに」と思うことがあれば、どんな小さなことでも結構ですでお聞かせください。

対象者：そうですね……。先ほど申し上げた価格の面もそうですが、あとは、私のような初心者のために「この塗り方で合っているのか」という手応えを、もう少しデジタルというか、スマホなんかで簡単にチェックできる仕組みがあると嬉しいですね。オンラインで買ったので、お店の方に直接教わる機会がありませんでしたから。「正しく使えている」という安心感が加われば、より確信を持って使い続けられると思います。

それと……反町さんの広告は、私のような世代には本当に刺さります。これからも、年を重ねることを肯定してくれるような、ああいう発信を続けてほしいですね。

インタビュアー：続けたいお気持ちも「4」とのことですが、満点の「5」まであと一步届かない、その境界線には何があるのでしょうか？ご自身の中で「ここが解消されれば、迷わず5と言えるのに」と感じる部分がありますか。

対象者：……そうですね。やはり「継続しやすさ」でしょうか。先ほども申し上げた価格の面が一番大きいのですが、単に「高い」ということだけではないんです。この一瓶を使い切った後、また1万円近いお金を払って買い直す自分を想像した時に、「本当にそれだけの価値を自分に与え続けていいのか」という、ある種の贅沢に対する後ろめたさが、どこかにあるのかもしれませんが。

インタビュアー：贅沢に対する後ろめたさ、ですか。

対象者：ええ。校長という立場もあり、普段はどちらかというと質素に、真面目に生活していますから。自分一人の顔に、これほどのお金をかけ続けることが、教育者として、あるいは一家の主としてどうなのか……というブレーキが、心のどこかでかかっているんです。もし、これが「自分を律するための必要経費」だと言い切れるほどの、もっと明確な、それこそ目に見えるような劇的な変化があれば、「5」になるのかもしれませんが。

インタビュアー：なるほど。その「ブレーキ」を外して、自分への投資として確信を持つためには、何が必要だと思われますか。

対象者：自分一人の主観的な「明るくなった気がする」という感覚だけではなく、客観的な裏付けのようなものでしょうか。例えば、先ほども言いましたが、プロの目から見て「正しくケアできていますよ」「肌の力が上がっていますよ」という診断があるとか。あるいは、一番身近な存在である妻から、お世辞ではなく「最近、本当に表情が良くなったね」と、心からの言葉をもらうとか。そういう「外からの確証」が得られた時に、初めて「これは続けるべきものだ」と自分に100%の許可を出せるような気がします。